中学校におけるデータ駆動型学習の 教材作成・指導実践と SCoRE 活用の可能性

西垣知佳子 † 中條清美 ‡ 神谷昇 † 小山義徳 † 横田梓*

†千葉大学 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町1-33

昔日本大学 〒275-8576 千葉県習志野市新栄 2-11-1

*千葉大学教育学部附属中学校 〒263-8522 千葉県千葉市稲毛区弥生町 1-33

E-mail: †gaki@faculty.chiba-u.jp, ‡chuujou.kiyomi@nihon-u.ac.jp, †nkamiya@chiba-u.jp,

† y_oyama@chiba-u.jp, *a-yokota@chiba-u.jp

あらまし グローバル化の進展する現代社会において、これまで以上に外国語教育の効果をあげることが期待されている。英語力強化が国の教育課題となるなか、本研究グループではこれまでにない外国語学習の手法としてデータ駆動型学習(Data-Driven Learning: DDL)に注目した。DDLはコーパスとコーパス検索ソフトを組み合わせて行う外国語学習の方法で、学習者がコーパス検索の結果を観察して、多数の英文用例から言語のルールやパターンを発見して学ぶという帰納的な学習方法である。本報告では、DDLを中学校の英語授業に取り入れた際の教材の作成方法と指導効果を報告するとともに、DDL実践をとおして明らかになった問題を検討する。そして、問題への対応策として、2014年10月にウェブ・ブラウザーのGPPS(Grammatical Pattern Profiling System)とともに暫定版が公開された教育用例文コーパス Sentence Corpus of Remedial English (SCoRE)の活用を検討する。ユーザーの使いやすさに配慮された SCoRE は、中学・高校の教育現場での有効な利用が期待される。

キーワード データ駆動型学習 (DDL),帰納的学習,語彙・文法学習,教育用例文コーパス

Possibility to Use SCoRE for Development of DDL Material and Application in Junior High School EFL Class

$\label{eq:chikako NISHIGAKI^{\dagger} Kiyomi CHUJO^{\ddagger} \\ \mbox{Noboru KAMIYA^{\dagger} Yoshinori OYAMA^{\dagger} and Azusa YOKOTA*}$

† Chiba University 1-33 Yayoi-cho Inage-ku Chiba-shi, Chiba, 263-8522 Japan

[‡] Nihon University 2-11-1 Shin'ei Narashino-shi, Chiba, 275-8576 Japan

* Affiliated Junior High School of Education 1-33 Yayoi-cho Inage-ku, Chiba-shi, Chiba, 263-8522 Japan

Abstract With Data-Driven Learning (DDL), learners observe lexical and grammatical patterns in concordance lines extracted from corpus. They discover language rules inductively with the assistance of the instructor. Although the effectiveness of DDL to enhance the accuracy of communication at the junior high school level has been shown, one problem has been finding level-appropriate corpora. To address this, the recently released corpus, Sentence Corpus of Remedial English (SCoRE), was used as a basis for the creation of DDL material and instruction. In this study, we will discuss the possibility of the application of SCoRE in L2 classes at Japanese junior high school.

Keywords Data-Driven Learning (DDL), inductive learning, vocabulary and grammar learning, SCoRE

1. はじめに

グローバル化社会の進展とともに、今まで以上に外 国語教育の効果をあげることが期待されている。そう した時代の要請のもと、筆者らは、これまでにない新 しい外国語学習法であるデータ駆動型学習 (Data-Driven Learning: DDL)に注目し、中学校の授 業に取り入れて指導効果を検証してきた。一方、DDL を中学・高校の教育現場に普及させるにあたっては、

47

解決すべき問題があることも明らかになった。

本報告では,第2節で DDL の概要について説明し, 第3節で中学・高校の英語授業に DDL を取り入れるた めの配慮事項を述べる。続いて第4節で DDL の指導効 果を報告し,第5節で DDL を中学校で導入する際の問 題点を明らかにする。第6節では SCoRE を活用した問 題解決の方法について検討し,最後に第7節で研究の まとめと今後の展望について述べる。

2. データ駆動型学習(DDL)の概要

DDL とは、コーパスとコーパス検索ソフトを組み合わせて行う外国語学習の方法である。学習者は検索ソフトの検索条件を指定して、学習目標(ターゲット)である単語やフレーズを検索して、その結果から言語のルールやパターンを発見して学ぶ。図1にはコーパス検索の結果の例を示した。

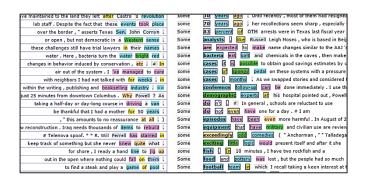


図1 コーパス検索の結果の画面例

教師が説明して教える伝統的な演繹的学習方法に 対し,DDLは言語データを観察して「気づき(noticing)」 を導く帰納的な学習方法であり,中学・高校の英語授 業において、「教わる文法学習」から「考える文法学習」 への転換を図ることができると考えた。また授業では DDLをとおして生徒が個別に英文を観察・分析した後、 グループやクラスで「気づき」を共有して理解を深め ることができる。そうしたプロセスを経て獲得された 明示的な文法知識に支えられて、正確さを伴ったコミ ュニケーション活動へと繋ぐことができる。

3. 中学・高校での DDL 普及のハードル

従来の学習方法に比べ,帰納的な学習を引き出す DDL は学習者に考える機会を与え,自律した学習者を 育てる等の効果が期待できる(O'Sullivan, 2007)^[1]。 実際に指導実践の成果も多く報告されており

(Granath, 2009; Cobb & Boulton, 2015)^{[2][3]},本研究 グループでもこれらの実践を大学生や大学院生に対し て行い,効果を検証してきた(Chujo & Oghigian, 2012; Nishigaki & Chujo, 2014)^{[4][5]}。そこで,次のステップ として DDL を中学・高校の授業に導入したいと考えた。

しかし, DDL を中学・高校で実践しようとすると, 次のような問題に直面した (Nishigaki, Amano, Minegishi & Chujo, 2011)^[6]。

- ・授業でコンピュータを使えるとは限らない。
- ・中・高校生に適した検索用コーパスがない。
- ・入門期学習者には言語のルールの発見は難しい。
- ・英文の用例が場面、状況から切り離されている。
- ・音声活動やコミュニケーション活動がない。

これらの問題に対処するために、まず、普通教室で DDLを行えるように、英文の用例を紙に印刷したペー パー版 DDL ワークシートを作成した。ワークシートに は英文用例に加えて、言葉のルールの発見を支援する ためのタスクを作成して併せて載せた。

DDLをとおして帰納的な学習を引き出すには、学習 者のレベルに適した英文用例をワークシートやパソコ ン上で提示する必要がある。図1に、世界的に利用さ れ、人気の高いコーパス検索サイトの検索結果の一部 を示したが、用例は長く、文の切れ目がわかりづらく、 使われている単語も難しい。このため、ウェブで入手 できる用例は、このままでは中・高生には難易度が高 く、教材として利用することができない。

そこで、本研究グループでは、「日本・中国・韓国・ 台湾 中学・高校英語検定教科書」に出現する英文を収 集して自作の英語教科書コーパスをつくり(西垣・天 野・吉森・中條,2011)^[7],それを利用して例文を選 ぶようにした。さらに一つ一つの文を短くし、未習語 と未習文法を排除し、提示する用例の数を絞ってワー クシートに載せた。また、英文に対して日本語訳をつ けて理解を助けるようにした。図2と図3には中学1 年生と3年生用に作成したペーパー版DDLワークシー トの例を示した。

実際の授業では、DDLを「コミュニケーション活動 を支える学習」と位置付けて、コミュニケーション活動とDDL指導を組み合わせて行った。このようにして、 DDLの用例は場面や状況から切り離されている、音声 活動が少ないという問題を解決するようにした。

.1	The movie starts.	at	10 o' clock	その時間は10時に始まります。
2.0	Nana often goes out	st	night	ナナはよく、夜に外出します。
1.1	We meet here.	st	hoon every day	彩たちは毎日正午にここで会います。
1.1	Mikako, gets up.	st،	six every day	毎日ミカコは5時に起きます。
5.1	We lived in Nagano.	st،	that time	台牌設立をは展開に住んでいました。
דע	12.i			•
6.1	Hot chocolate is good.	00.1	a cold day	奉い目にココアはいいですよ。
7.1	We will have a party.	00.1	Christmas Eve	彩たを泣かりステスイブにメーティをします。
8.1	We can meet again.	00.1	the day	彩たちはその日にまた会えます。
9.1	We have four classes	00.1	Wednesday,	我たちたた魔皇にもつの世家があります。
0.1	Girls meet their boyfriends	01.1	Valentine's day.	古の手たパレンタインボーにボーイテレンラン会い生す。
リス	F3.,			
1.1	We had a big meeting.	in.	2000,.1	2000 年に大きな金融がありました。
2.1	We can see cherry blossoms	in.	April	を耳に桜の花を見ることができます。
3.1	What do you want to do.	in.	summer?	あなたは夏に何をしたいですか。
4.1	We have two lessons.		the afternoon	私たちは午後に3つの簡単があります。
5.1	The girls go to school.	in.	the morning	女子は午前中に牟校に行きます。
	◎先生と一緒にリストの英文を読もう。 □ 読みました。			
	◎_で囲まれた表現にあたる日本語訳を例にならって◯で囲もう。 □ 囲みました。			
1.7	Bat, on, in に続くで囲まれた話。			
	②友だちの発見と比べよう。あなた! 記録の発見。	こない	こだちのいい発見をま 友だちの路	
a	t.)		at.	1 73 .1
3.1 .1				
1°	n.,		on	
	1		in	

図 2 中学 1 年生用 DDL ワークシートの例



図 3 中学 3 年生用 DDL ワークシートの例

4. 中学校における DDL の実践成果

学習者を学習活動の主役に据え,主体的な学びを引き出す DDLは,語彙・文法学習に有効であろうと考え, 中学校の英語授業に取り入れ,4 件の指導実践を行っ た。4 件の実践には合計 232 名の学習者が参加した。 いずれの場合もコミュニケーション活動に重きを置い て指導し,語彙・文法指導の部分において処置群では DDLを行い(DDL群),対照群では語彙・文法項目を 教師が説明して教える従来型の指導を行った(従来型 群)。4 件の実践は,異なる3つの中学校で行った。ま た,指導した文法項目は,すべての実践で異なるもの であった。指導効果の測定には,指導前にプリポスト, 指導終了約1週間後にポストテスト,指導終了約1か 月後に遅延テストを実施した。

その結果、4 件いずれの場合も、プリテストに比べ

てポストテストでは,統計的に有意な得点上昇があり, DDL 群も従来型群も学習項目を等しく理解していた ことがわかった。遅延テストにおいて,DDL 群はポス トテストよりもさらに得点が上昇した。一方,従来型 群では遅延テストの得点が少し上がったり,横ばいだ ったり,逆に下がったりするなどした。このため4件 とも遅延テストで両群の得点差が開いた。

DDL 指導の効果を分析した結果のうち,得点の推移 を示す代表的な例を図4に示した。図4からは,事後 テストでは同じように学習項目を理解していたものの, 遅延テストでは両群の効果に差が生じたことが見て取 れる。これらの結果,DDLは語彙・文法指導に効果が あり,さらに時間の経過とともに,教師が説明をして 教える従来型の指導法に比べて定着率が高いことが確 認できた。DDL が遅延テストにおいてより顕著に効果 が現われる理由については,今後,検証を重ねて解明 していきたい。

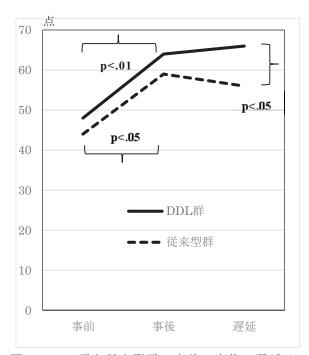


図 4 DDL 群と従来型群の事前・事後・遅延テストの 結果の例(西坂, 2014より)

また、センテンスの文法構造分析能力についてもテ ストした。その結果からは、DDL 群では従来型群に比 べて、初めて触れる文構造を明示的にとらえる「気づ き」の力が養われていたことも確認された。

さらに, DDL 群に対して行った指導後のアンケート 調査に示された感想からは,以下のとおり,学習者自 身も DDL をとおして発見活動の面白さを体験し,ま た記憶に残りやすいと感じていることもわかった。

- 自分で発見することによって、文法が完全に理解で きると思う。実際にこの授業で英語のテストの点数 が上がったので、変えて欲しくない。これからも発 見する授業をして欲しい。
- ・先生にただ説明されるだけの授業よりも、自分たち で考えて、きまりを見つけて学習していく方が、頭 にはいってきやすいと思う。
- 「教えられる」という一方的に受ける方ではなく、自 分からも発信することで理解が深まる。
- 自分だけの目線ではなく、友だちが違う目線から見 えることがたくさんあったので、とても良いと思う。
- ・同じようなことが書いてあっても書き方が違くて面 白かったです。

以上の実践の詳細については西坂(2014), 尾崎 (2015,予定), 横田(2015,予定), 西垣・小山・神谷・ 横田, 西坂(2015,予定)を参照されたい^{[8][9][10][11]}。

5. 中学校における DDL 導入の問題点

これまでの実践で DDL は指導効果を上げてきたが, 中学校への導入には問題もあった。その一つが教材準 備に時間を要することであった。英文用例を集める際 に,学習者が学習ターゲットの発見に集中できるよう に,未習の語彙や文法事項を含まない,短く,実際の 英語使用に有効な英文用例を抽出する必要があった。 筆者らがこれまでに行った実践では,前述の自作教科 書コーパスを活用して用例を抽出し,学習者のレベル を考えて文の長さ,語彙と文法のレベルを調整してペ ーパー版ワークシートを作成し,レベルの問題に対処 してきた。

しかしながら,多種多数な用例から,適切な例文を 選ぶ工程は時間がかかるうえ,十分な数の適切な例文 がそろわない場合も多い。ネイティブ・スピーカーに アドバイスを求めながら英文を加工する作業にも時間 がかかった。こうした教材作成の負担軽減は,DDL 普 及推進のために,解決すべき課題であると考える。

このような用例の抽出・選定の問題への対応として、 2014 年に暫定的に公開された Sentence Corpus of Remedial English (SCoRE)の利用価値は非常に高い と考える。SCoRE は教育用例文コーパスで、主に大学 生のリメディアル教育への利用を目的として構築され た。SCoRE には、著作権フリーの、簡潔で、自然な英 文用例とその日本語対訳が集積されている (Chujo, Oghigian, & Akasegawa, 2015)^[12]。SCoRE は、その例 文を閲覧, コピーできるウェブ・ブラウザーの Grammatical Pattern Profiling System (GPPS)とともに 公開されていて (http://score.lagoinst.info/),英語教員 にとって実用性が高く、便利に利用できる (図 5)。

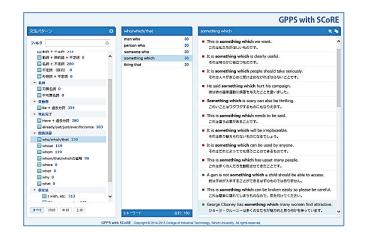


図5 SCoRE の画面例

SCoRE では、大学生を対象としたリメディアル用と して初級・中級・上級の3段階のレベルで、それぞれ 10 文以上の用例が提供されている。そのうち初級用の 用例は、文の長さは8語以下、使用語彙は米国の小学 校1、2年生レベルにコントロールされており、日本の 中学生用の英文用例として利用できるものが多い。

さらに SCoRE には日本語対訳があるので,日本語訳 付きのワークシートを簡単に作ることができる。現在 公開されている SCoRE 暫定版では,所有代名詞(属格 表現),to不定詞,受動態,現在完了,関係詞節,仮 定法の文法パターンに関して,3,142 文の英語例文が 利用できる。利用にあたっては,煩雑な利用登録の手 続きも必要ないので,必要な時にいつでも手軽にアク セスできる。また著作権について心配することなく, コピーした用例をそのまま利用したり,学習者の実態 に合わせて一部を加工して利用することも認められて いるので,DDL 教材の準備作業の時間が大幅に短縮さ れると言えよう。SCoRE が公開されたことによって, 中学・高校での DDL 導入が加速されることを期待した い。

6. まとめと今後の展望

外国語の語彙や文法に関する明示的知識は, コミュ ニケーション活動を支える。中学・高校のコミュニケ ーション活動に DDL を取り入れることで,コミュニケ ーションの流暢さと正確さの両輪をバランス良く育て ることができると考える。

これまで,DDL 教材の作成は時間と手間のかかる作 業であった。そうしたなか,SCoRE の公開によって DDL 教材の作成が格段と簡便に,身近になった。著作 権の心配もなく,利用者登録の手間もなく,インタネ ット環境があればいつでも利用でき,実用性が高いこ とから,今後は SCoRE を有効に活用して,年間カリキ ュラムに沿う形で,中学1年生から中学3年生のDDL 教材を作っていきたい。また、中学・高校のなめらか な接続と連携を視野に入れて高校生用の教材を作成し て実践を行い、DDLを広げていきたいと考える。

さらに今後は、中学・高校での ICT 活用が活発になると考えられる(文部科学省,2014)^[13]。筆者らはこれまでに、タブレット端末を利用する DDL 実践(図 6,図 7)も実施してきた(西垣・横田・小山・神谷・中條,2015,予定)^[14]。



図 6 タブレット端末を使って,DDL ワークシート に取り組む活動の様子:ペア活動



図7 黒板に投影された DDL ワークシートにタッチペンで書き込みをする生徒:集団活動

今後はこうした ICT を活用する実践も拡大していく 予定であり, ICT によって SCoRE の中学・高校での利 用可能性はさらに現実のものとなり,広がるものと考 える。

謝 辞

本研究は、科学研究費補助金基盤(C)(25370618)お よび科学研究費補助金奨励研究(26908052)の支援を 受けて行われました。ここに感謝申し上げます。

文 献

 I. O'Sullivan, Enhancing a process-oriented approach to literacy and language learning, in The role of corpus consultation literacy. ReCALL, vol.19, no.3, pp. 269-286, 2007.

- [2] S. Granath, Who benefits from learning how to use corpora, in Corpora and language teaching, K. Aijmer, ed., pp. 47-65, John Benjamins, Amsterdam, 2009.
- [3] T. Cobb, and A. Boulton, Classroom Applications of Corpus Analysis, in The Cambridge Handbook of Corpus Linguistics, D. Biber and R. Reppen, ed., pp. 478-497, Cambridge University Press, Cambridge, 2015.
- [4] K. Chujo, and K. Oghigian, DDL for EFL Beginners: Recent Gains and Student Views on the Role of L1 and Paper-Based Concordancing, in Input, Process and Product: Developments in Teaching and Language Corpora, J. Thomas, and A. Boulton, ed., pp. 169-182, Masaryk University Press, Brno, Czech Republic, 2012.
- [5] C. Nishigaki, and K. Chujo, L2 data-driven learning with a free web-based bilingual concordancer, 2014 Conference Proceedings, the Twelfth Annual Hawaii International Conference on Education, pp. 806-817, Honolulu, USA, Jan. 2014.
- [6] C. Nishigaki, K. Amano, N. Minegishi, and K Chujo, Creating a Level Appropriate Corpus and Paper-Based DDL for the High School L2 Classroom, Proceedings of ASIALEX 2011, The 7th International Conference Second Circular, pp.396-405, Kyoto, Japan, 2011.
- [7] 西垣知佳子,天野孝太郎,吉森智大,中條清美,「中・高生のためのコンコーダンスラインを利用したデータ駆動型英語学習教材の開発の試み,」千葉大学教育学部研究紀要,第59巻,pp.235-240,2011.
- [8] 西坂高志、「言語感覚の獲得を目指した語彙指導の 研究 ーデータ駆動型学習とコアを活用した語彙指 導を通してー、」平成25年度千葉県長期研修生研究 報告書、2014.
- [9] 尾崎さおり、「表現活動を支える気づきを生かした 文法指導 ーコミュニケーション活動後にデータ 駆動型学習を導入して-、」平成26年度千葉県長期 研修生研究報告書、2015(予定).
- [10] 横田梓,「中学校英語科における「データ駆動型 学習」の効果の検証 一文法ルールの発見から自己 表現へ一,」千葉大学教育学部附属中学校研究紀要, 第45集,2015(予定).
- [11] 西垣知佳子,小山義徳,神谷昇,横田梓,西坂高志,「データ駆動型学習と Focus on Form -中学生のための帰納的な語彙・文法学習の実践-,」Kate Journal(関東甲信越英語教育学会誌),第28号,2015 (予定).

- [12] K. Chujo, K. Oghigian, and S. Akasegawa, A Corpus and Grammatical Browsing System for Remedial EFL Learners, in Multiple Affordances of Language Corpora for Data-driven Learning, A. Leńko-Szymańska, and A. Boulton, ed., pp.109-128, John Benjamins, Amsterdam, 2015.
- [13] 文部科学省、「今後の英語教育の改善・充実方策 について報告~グローバル化に対応した英語教育 改革の五つの提言~」,2014.
 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/1 02/houkoku/1352460.htm
- [14] 西垣知佳子, 横田梓, 小山義徳, 神谷昇, 中條清 美,「中学校英語授業における「言葉を観察する眼」 を育てるデータ駆動型学習の実践 -ペーパー版 DDL からタブレット版 DDL への発展-,」千葉大 学教育学部研究紀要, 第 63 巻, 2015(予定).